

報告

中国の大学のカリキュラム改革に関する考察 — 教養教育を中心として —

神崎 明坤

<要 旨>

1990年代以降、中国の高等教育カリキュラム改革が幅広く抜本的に進められている。その要因としては市場経済の導入により、経済の発展、社会の需要に対応する人材を育成することにある。カリキュラムの趣旨は高等教育において大学生の総合的な能力の育成と素質（資質）教育*の重視を理念として掲げ、従来の狭い専門教育偏重から深い教養教育と高い資質教育及び広い専門教育とのバランスを図るカリキュラム、教育内容へ方向転換してきたことである。

本研究の目的は、2012年から2014年にかけて中国の青島1大学、北京3大学、上海2大学、浙江1大学、計7大学のカリキュラム調査の内、大学における教育の質的変化をカリキュラム問題に焦点を当て、教養教育の実態を明らかにすることである。

その結果、以下のことが明らかになった。

1. 文理融合型のカリキュラム編成となっている。
2. 素質教育が含まれた。
3. 外国語科目を含む異文化への理解を深める科目が重視されている。

キーワード：中国高等教育改革、教養教育、素質教育、エリート教育、大衆教育

1. はじめ

近年、中国における高等教育は様々な改革が進められ、質・量共に飛躍的に発展を遂げた。高等教育研究が抱える多くの課題の中において核心的な問題は、大学カリキュラム改革の問題であると大きな注目を集めている。1990年代後半から大学入学定員の拡大政策によって、2001年に大学進学率を15%まで引き上げたと言われ、いわゆる高等教育大衆化の段階に急速に量的規模を発展させてきた。従来のエリート教育から急速に大衆教育に転じた中国の高等教育は「高点低能」、「高能低徳」という現象が深刻化しつつあり、社会からの非難を浴びるようになった。この露呈してきた深刻な問題点を改善するために、中国政府は現在のカリキュラムを変えるべきであるとの結論に至り、幅広い知識、専門の間口を広げ、道徳教育及び適応性を増強

しなければならない、と規定した。1994年に国家教育委員会によって公布された「二十一世紀を目指す高等教育の教育内容及びカリキュラム体系改革計画」を推進すると共に、1999年に「中共中央国務院が教育改革を深化し、全面的に素質教育を推進することに関する決定」と発表された。従って、「文科系、理科系の基礎人材の養成基地、基礎課程教育の基地、文化的素質養成の基地を創り上げなければならない」と規定された。これに伴い、カリキュラム構造及び教育内容を見直さなければならないことが迫られている。

本研究では、1990年以降、中国の高等教育カリキュラムの編成において、「通識教育」を中心とする教養教育の変容とその成果に関する研究に着手する。中華人民共和国建国後、工業立国に伴い高等教育はほぼ専門教育に集中してきた。それ故、専門教育に偏重した高等教育の構造の変革を試みた。また、1999年に展開さ

れた「素質教育」について、用語の定義、政策、背景、理念、内容、実施状況及び評価のプロセスなどを明らかにする。さらに本稿では筆者が四回にわたって中国の青島大学、上海復旦大学、浙江大学、北京国際関係大学等の7大学に新カリキュラムの編成、実施状況を質問紙調査とインタビュー調査を行い、その調査した結果に基づき、教養教育と専門教育の実態及び学生や教員からの示唆を踏まえて、分析してみようとするものである。

2. 中国の高等教育における教養教育の歴史的変遷

中国の高等教育における教養教育は中国の政治の変動、経済の発展によって左右され、改革されてきたのである。高等教育について1898年から1990年までの90年間を一括にしてみれば、この90年間は五つの時期に分けられる(楊、2003)。

(1) 近代高等教育の成立期(1898年～1949年)

1898年に北京大学は中国で初の大学として設立され、近代教育制度が確立された。主に日本、フランス、アメリカの教育制度を手本としたものである。当時蔡元培が教育総長(文部大臣)としてアメリカのモデルを模倣して教養教育理念を導入した。1928年第一回全国教育会議では、大学教育の質的向上の観点から「大学規程」第8条には、「党議」「国語」「体育」「軍事訓練」「第1、第2外国語」を共通必修科目とする。中央の教育行政機関によって、開設科目の基準が示され、統一性が強かったと、掲げられている。この時期は教養教育に重視されていった(大塚、1996)。北京大学の学長を務めていた蔡元培が、大学思想は「兼容並包」(文系・理系のを全て身に付けること)という教育理念を提唱した。大学教育の目標は知識人を育成するのではなく、教養のある人間を育成することであると指摘した。清華大学の学長梅贻琦は、大学教育は「スペシャリスト」より「ゼネラリスト」(通才為本、専才為末)とする教養志向を主張した。

(2) 新中国成立期(1949年～1952年)

中華人民共和国の高等教育機関の主旨は、中国人民政治協商会議共同綱領の文化教育政策に関する規定に基づき、理論と実践を一致させる教育方法をもって、高度な文化水準を備え、現代科学及び技術の成果を身に付けると共に、誠心誠意人民に奉仕する高級建設人

材を養成することであると指摘されている。大学カリキュラムの教養教育と専門教育との均衡を取るために、以下のとおりに各学科の共通必修科目が規定された。

- 1) 政治(政治思想教育)
 - ①社会発展史
 - ②新民主主義論(中国新民主主義革命を含む)
 - ③政治経済学
 - ④弁証法的唯物論及び史的唯物論
- 2) 現代国語及び作文
- 3) 外国語(ロシア語・英語)
- 4) 中国近代史、世界通史
- 5) 体育、音楽

第一学年は以上のような教養教育の科目を主とするものである。第一時期と比較して、一般教養的な諸科目が激減した。これはアメリカのリベラルアーツ教育の影響を受けた旧来の教養主義的なカリキュラムからの離脱が図られたことが示されたのである(大塚、1996)。

(3) 旧ソ連モデルのカリキュラムの導入期(1952年～1966年)

1949年に建国後、工業立国を軸とした中央集権の経済建設が進められる中、カリキュラムの摸索期に試行錯誤を行ってきた。1952年8月に「全面的にソ連化」が導入された。大規模に大学調整を進め、総合大学と専門単科大学の特質と目的を明確にし、専門人材を養成する教育と開設する科目については、国の経済、政治、国防建設の実際的な需要に基づくべきである。とりわけ、工業系の重要度が強まっていった。カリキュラムは旧来の教養教育重視から専門教育偏重へと転換した。教養教育科目としては「マルクス・レーニン主義原理」「政治経済学」「毛沢東思想」しか設置されなかった。それ以外の教養教育科目が全部削除された(大塚、1996)。

(4) 文化大革命期(1966年～1976年)

1966年から1976年までの十年間文化大革命により、中国の高等教育は正常な教育を実施することが不可能で、停滞状態となり、結果的に教養教育科目は「マルクス資本論」、「レーニン主義」、「毛沢東思想」、「共産党の歴史」、「社会主義政治経済学」しか設置されなかった。

(5) 改革開放期（1978年～1990年）

1977年文化大革命によりやく終止符が打たれ、大学入試制度が復活された。1978年中国共産党中央から経済に関する「改革・開放」政策を発動し、長年の中央集権化計画経済から市場経済を目指す改革は徐々に推し進められてきた。高等教育も正常な軌道に乗り始めるようになった。しかしながら、高等教育体制は基本的に旧ソ連モデルの影響により、専門科目教育の偏重型で専門性や実用性の高い人材養成に重点が置かれている。つまり専門教育があまりに細分化され、狭い範囲に限られていたカリキュラムが実施し続けられている。育成してきた人材は科学技術の日進月歩、新たに発展してきた経済、社会と企業の要請に対応出来なくなり、各専門教育の間口をより広めるように強く求められてきたのである。

3. 中国における21世紀を目指す大学のカリキュラムの改革

1990年代から今日に至るまで、知識基盤社会や高等教育の大衆化、グローバル化の進展に対応した中国における大学教育はカリキュラムの再構築が重要視され、改革・見直しが進められてきた。中国政府から1990年代以降高等教育に関する改革方策が次々と打ち出されてきた。例えば、

- ① 1993年に中国共産党中央・国務院によって『中国教育改革・発展要綱』
- ② 1994年に国家教育委員会により『二十一世紀を目指す高等教育の教育内容及びカリキュラム体系の改革計画』
- ③ 1999年1月に国務院により、『二十一世紀を目指す教育振興行動計画』
- ④ 1999年6月に『中共中央・国務院が教育改革を深化し、全面的に素質（資質）教育を推進する教育改革に関する決定』

が公布された。そのうち1994年に公布された『改革計画』は高等教育に関する教育思想、教育理念、人材育成モデル、教育内容、カリキュラム体系などの改革について詳細に規定している。具体的には①新しく規定された「専攻目録」に基づいて専門教育の人材育成規格モデル、カリキュラム構造、教育内容の見直しと改善の実現；②質の高い二十一世紀を目指すカリキュラム及び教科書の編成が求められる。

『改革計画』には、①二十一世紀に対応する人材が備

えなければならない知識、能力、素質を研究し、教育理念・人材養成のモデルを改革する、②専攻構造と専門科目を見直す、③主要な専攻の教育指導要領やカリキュラム構造を研究する、④基礎科目、専門科目の内容及び相互連携を研究し、改革すると同時に教育法も改革する、という大学生の基礎教育と専門教育のバランスを強化する。

この『改革計画』の趣旨に基づき、大半の大学では教養教育と専門教育の見直しが行われてきた。1990年後半にほとんどの大学で「通識教育」（教養教育）の科目が設けられるようになった。この「通識教育」とは実はGeneral Educationの中国語訳である。「通」は通達する、貫通、融合という意味で、「識」は識見、学識で、即ち整合的な知識を意味する。通識教育は人文科学、社会科学、自然科学等領域の知識にわたり、豊かな教養と幅広い見識を備える人材を養成することを目指した。

3-1. 高等教育における教養教育の位置づけ

教養教育では（1）学習者の全面的な資質の向上を図る、（2）社会人になるに当たって必要な基本的な知識と教養を備える、（3）更に総合的な能力を持ち、問題を捉える能力を培う、という要求が打ち出されている。それに従って、各大学は学習者の深い教養教育とより広い専門教育のバランスを図るカリキュラムの改革を進め、教養教育の内容やカリキュラムの構造、関連する授業時間の配分、単位の配分などが大幅に増加されてきた。例えば、北京大学では低学年において教養教育、高学年においてはより広い専門教育を実施することである。文系・理系融合モデルで取り組まれている。更に①数学と自然科学、②社会科学、③哲学と心理学、④歴史学、⑤言語学、⑥文学と芸術という六つの領域が学ばれるべきことを規定している。大学の設置基準によって、300ほどの教養科目が設置され、学習者に六つの領域から教養教育科目24単位を履修しなければならないと定められている。国家に定められた共通必修科目では32単位「マルクス哲学原理」、「マルクス政治経済学原理」、「毛沢東思想概論」、「鄧小平理論概論」、「思想道德修養」、「法律基礎」、「軍事理論」、「体育」、「美術」、「大学英语」、「コンピューター科目」を32単位履修しなければならない。新カリキュラムの中で教養教育の比重は40%以上に達したということである。その中に外国語（英語）の熟達と外国語を通じた多元文化の理解、コミュニケーション能力の育成が特に重視されている。

大学教育を充実したものとする上で、人文科学、自然科学、社会科学等が構成された教養教育を重視することが如何に重要であるかを中心にカリキュラムを編成することの重要性が位置づけられると思われる。

3-2. 高等教育における素質（資質）教育の展開と強化

1999年6月に中共中央により『中共中央国務院が教育改革を深化し、全面的に素質教育を推進する教育改革に関する決定』が公布された。全ての教育機関において「素質教育に特に明確に重点を置く」のは、高等教育カリキュラムの再構築が提起されたばかりでなく、高等教育の最高理念、目標として様々な活動を通じた学習者の素質の向上、特に文化素質に関する教養教育の内容を提唱しているのであると掲げられていた(黄、2005)。

素質教育は「思想道德素質（資質）、文化素質（資質）、業務素質（資質）、身体心理素質（資質）」と四つを掲げている。つまり学習者が様々な活動や経験を通じた芸術を含めた人文科学のカリキュラム、豊富多彩な課外文化芸術活動に参加し、美的な鑑賞を体験し、学生の美的鑑賞のみならず、美的能力を創造する。人材の資質が低下の一途を辿る現状に鑑み、21世紀を担う人材像として「思想資質、文化素質、業務素質、身体心理素質」を備えた深い教養を持ちながら幅広く専門知識を持った社会基盤を支える人間でなければならないと考えられる。

中国で1994年に『改革計画』、1999年に『素質教育決定』が打ち出された背景には、教育と生産の結合により各学問分野の専門家、専門人材の要請を重視した工業経済の社会から、産・学・研の一体化した教育による経済社会の主軸となる高い素質の創造的人材の養成を重視した知識経済へ転換したことがあった。そのため21世紀には国の総合的国力及び国際競争力が教育の発展水準、科学技術の水準によって決まるため、教育は終始優先的に発展すべき戦略的地位に置かれると示された。したがって、21世紀を生き抜く人の素質の育成を教育の目的とし、国際競争力強化と大学の質の向上が目指された。大学教育は将来学生が如何なる職業に就くにせよ、社会の進歩に貢献でき、且つ価値的判断力や美的鑑賞力を有し、科学的な判断力を備える人材を育成する教育と規定される。この目標に従って、リベラルアーツ教育科目は、人文、社会、自然の三系列構成にされる。専攻分野にかかわらず、履修すべき必須のリベラルアーツ教育科目「共通科目」があると

いうことを前提としている。実際には公共必須科目を厳選する方針が採られた。

国家レベルの課程は「両課科目」、「共通科目」、「外国語科目」、「軍事と体操科目」及び「コンピューター応用科目」の五つの科目群からなっている。共通教育科目は、設置基準にある素質教育の向上、創造力の養成、個性の発達の育成を行うことにある。大学レベルの課程では、設置基準にある「幅広い教育」から一歩踏み込んだ具体的な目標が定められている。それまで全学教育の一部として定着していた総合教育課程を素質教育の重要な要件として取入れること、また、新たに(1)学問や社会の多様性を理解し、(2)コミュニケーション能力を高め、(3)研究の一端に触れ、(4)社会的な責任と倫理を身に付ける、という具体的な教育目標が定められた。

カリキュラムの設置方針

厚基礎—基礎的知識、基礎的理論、基礎的技能との緊密性の重視

寛口径—専門間口の拡大、学際的学科、領域横断的な専門知識とリベラルアーツ教育思想の関係付け

重能力—能力の重視、学生の能力の育成、特に研究的な能力、創造的な能力の重視

求創新—新たな創造精神と知識経済社会の要請に対応できる人材の育成

この教育方針は、大学カリキュラムに具体化された。同カリキュラムの特色は4年大学教育を一貫したものとして、各大学は地域の特徴、学習者のニーズを把握した上で、カリキュラムを編成することとなった。

4. 2000年の新カリキュラムの実施校

以下、新カリキュラムを実施する大学実例を取り上げ、実態を見てみよう。

浙江大学

浙江大学は新カリキュラム実施の重点大学である。2001年より共通科目にコアカリキュラムが導入され、授業内容のスタンダード化が進められてきた。そのカリキュラムの構成は「教養（通識）教育」、「専門基礎教育」、「専門教育科目」「個性教育科目」の四つから構成されている。全学の学生は156単位が卒業の最低単位数となっている。

① 教養（通識）教育

学習者の全面的資質の向上を図ることを重視して

いる。その目的は必要基本的な知識と教養、更に総合的能力、問題を捉える能力を培うことにある。これによって専攻する分野の理解を助け、研究課題に取り組む際には刺激を与え、幅広い学際的視野から問題に向かうことを狙うこと。学生にとって均衡的な知識の構造・基礎・基本を重視しながら、体系的な学習が可能となる。このカテゴリーの科目は政治、体育、外国語、コンピューター、歴史と文化、文学と芸術、経済と社会、コミュニケーションと指導力、科学と研究、芸術と設計等となっている。即ち専攻に至る前段階で様々な学問領域から幅広く学習することを示している。これらの科目は一年次から二年次に配置されている。大学によっては通識教育等の実質的な充実を目指す少々の工夫も認められる。専門教育という位置づけは学問の広がりを考え、「資質」と「能力」というカテゴリーに分けられている。

② 専門基礎教育

学科の幅広く深い知識基礎の構築である。知識を広く開拓することに狙いがある。骨格となる専門分野の最も基本的な思考様式と知識を理解させると共に、各学科の学問体系の基盤と存在意義を理解するための科目である。それは人文社会科学、自然科学、工程技術、芸術設計等が含まれている。このカテゴリーの科目は二年次に配置されている。

③ 専門教育

専門基礎科目の理解の上に、各学科における教育の骨格となる分野の基本をより具体的に理解すると共に、専門科目を履修するに当たっての基本的領域について理解するための科目である。学生にしっかり学科専門知識及び専攻教育の実践能力、新たな創造精神を培うことを重視している。専攻必修科目で実践教育、卒業設計等が含まれている。このカテゴリーの科目は3年次から配置している。

④ 個性教育

学生の多様なニーズを考慮して通識教育・専門教育以外の科目区分の他に、「自由科目」を設け、自由に選択履修できる方法を採用して、学生自身が独自に設定できる。履修科目は学生自らの趣味、関心に応じて主体的に科目の選択及び隣接関連学科の履修が可能となるようにしている。これらの科目は2年次から4年次に配置される。

浙江大学はピラミッド式のカリキュラムの構成モデルをしている。そのピラミッドの底は国家における教養共通科目、その第二層は大学における教養教育科目、その第三層は学部における基礎教育、頂上は専門コアカリキュラムとなっている。このカリキュラム構成について第一、二学年は教養教育段階、第三、四学年は専門教育段階となる。科目構造の割合で教養共通公共教育は30%、専門基礎教育は35%、専門教育は15%、文化融合科目は15%、自由選択科目は5%となっている。

以上ここで取り上げた研究型大学—浙江大学のカリキュラム改革のあり方を見てきたが、基本的には教養（通識）教育と専門教育の有機的結合を目指したものであり、人間育成のために、素質の向上及びより高く幅広い専門性を持ったカリキュラムの構造は以前に比べ、かなり多様化、柔軟化しており、教養（通識）教育関係の履修が重視され、その内容も多岐にわたっている。素質教育を基礎とし、能力養成を核とした教育理念によって、カリキュラムの編成を行い、教養教育の比重が大きいくことが分かる。専門分野にかかわらず、共通に必要なとされる知識を習得させることも求められている。教養的教育の充実にも力を入れている。

復旦大学

復旦大学は、中国から指名された重点大学で、90年代の半ば頃から国家の新カリキュラムの理念に基づき、具体的な改革案を早々と検討し、大規模な改革を実施した。改革の中心理念は、教養教育の重視・多様化、専門教育の充実、自由選択の拡大となっている。授業科目区分においては、国家に規定された課程、大学レベル課程（総合教育課程、文理基礎教育課程）と専門教育課程の三本柱から構成されている。国家レベル課程は、マルクス主義、毛沢東思想概論、英語、コンピューターからなっている。それは国家に規定された必須科目となっている。また、法学基礎、美学、人文科学と芸術、社会科学と行為科学、自然科学、医学などは選択必修科目となっている。大学レベル課程では、総合教育科目の主幹部分は、低学年にとどまらず、全学の学生に向けて編成されたものであり、教養教育を主とする科目として設置されたものである。これらの科目は学生が社会人になった時、最も基本的な素養として備えなければならない知識であると認識されていたのである。

文理系基礎課程の目標は、全学の学科課程において

は、学生に系統的な学科知識を習得させることにある。文系理系基礎課程の科目は経典であり、領域群は、整合性、体系的、規範的な知識を備え、その内容の深さ、能力、実用訓練、単位設置なども独立標準を規定し、基礎知識及び技能訓練の有機的結合により、人文、法学と政治、経済と管理、自然科学、科学技術、数学及び医学という七つの科目群から構成されている。

必修の基礎科目は、文科・理科に分けず、基礎教育科目は教養教育が重要視されていると言えよう。その中核として編成された際には、五つの基本領域の分類が行われている。それらの領域においては、学生の専攻以外に四つの領域から17単位の履修が求められ、教養共通科目の基礎知識のアンバランスを克服するために考えられた授業科目なのである。その狙いは、学生の全面的素質の向上を図るために、不可欠である学際的な知的枠組みを取入れ、多角的な視野を広げることができるように、学習させようとしたものであると考えられる。

新カリキュラム改革の最大の特徴としては、復旦大学に入学後、専攻を区分せず、文系理系基礎学院で一年間少人数のゼミ教育を受け、二年次から専攻を決定することにある。学生を中心に基礎的総合的な知識の習得を目標として、2005年度から素質教育の改革を実施し、それに伴う教育ゼミコースを設置したものである。

その特色として、

- 1) 10人程度の少人数教育

- 2) 複数分野を跨る授業科目
- 3) 意味ある知的枠組みの提供
- 4) 教養教育と専門教育との有機的な編成

を目指すということである。入学後早い段階で知的活動力への動機付けを高め、科学的な思考方法と適切な自己表現能力を育成することが図られるものである。

以上取上げた二校のカリキュラム改革の事例は、基本的に教養教育科目を大幅に増加させ、教養教育と専門教育の有機的結合を目指した素質教育の向上を図ろうとしたものと思われる。いわゆる知識への深い探究心、思考能力の養成、多様なコミュニケーション能力養成が目標に掲げられているのである。勿論その改革理念、目標の具体化は、必ずしも全国一様ではなく、それぞれの大学の歴史や実情に応じて、その特徴を有したものとなっていた。

5. 新カリキュラムに対する学生からの示唆

現行改訂されたカリキュラム編成、実施状況について、中国青島1大学、北京の3大学、上海2大学、浙江1大学の三年次～四年次までの日本語専攻の学生計143名を対象に2012年3月下旬質問紙調査を実施した。また、インタビュー調査を行った。上の7校の教員にインタビュー調査も行った。それについては本稿では扱わない。質問紙調査結果は表1の通りである。

表1-1 現在実行教養教育カリキュラムに関する質問

・時間割が自由に組むことができる	15.0%
・視野を広げる勉強ができる	70.0%
・個人の特長を伸ばすことができる	30.3%
・学生の創造思考力が育成できる	50.7%
・幅広い知識を身に付けている	67.3%
・思考力を身に付けている	40.2%
・総合的に判断能力を身に付けている	40.2%
・多文化への関心を身に付けている	20.5%
・教養教育を実施すべきである	50.3%
・専門知識を身に付けている	70.1%
・理論的思考力を身に付ける	45.0%
・学習の幅広さと深さができる	35.2%
・探究心の養成ができる	21.2%
・汎用的な能力を身に付ける	45.3%
・各科目の到達目標を明確にする	44.0%

注：全体143名のうち…%がその項目に該当すると回答したものである

表 1-2 現在実行教養教育カリキュラムに関する質問

	当てはまる	やや当てはまる	どちらともいえない	余り当てはまらない	当てはまらない
時間割が自由に組むことができる	5.4%	9.6%	67.9%	15.7%	1.4%
視野を広げる勉強ができる	30.1%	39.9%	27.9%	2.1%	0.0%
個人の特長を伸ばすことができる	18.4%	11.9%	49.6%	14.5%	5.6%
学生の創造思考力が育成できる	30.3%	20.4%	25.6%	16.1%	7.6%
幅広い知識を身に付けている	32.9%	34.4%	25.1%	7.0%	0.6%
思考力を身に付けている	23.8%	16.4%	39.8%	12.5%	7.5%
総合的に判断能力を身に付けている	19.7%	20.5%	30.1%	18.1%	11.6%
多文化への関心を身に付けている	15.5%	5.0%	51.0%	18.1%	10.4%
教養教育を実施すべきである	33.6%	16.7%	46.2%	2.8%	0.7%
専門知識を身に付けている	51.2%	18.9%	24.4%	3.4%	2.1%
理論的思考力を身に付ける	37.3%	7.7%	35.7%	13.2%	6.1%
学習の幅広さと深さができる	28.8%	6.4%	35.6%	16.1%	13.1%
探究心の養成ができる	14.8%	6.3%	49.6%	19.6%	9.7%
汎用的な能力を身に付ける	25.8%	19.5%	39.2%	10.6%	4.9%
各科目の到達目標を明確にする	30.0%	14.0%	38.5%	11.2%	6.3%

上記の7大学調査の結果を見れば、新カリキュラム育成方案の理念が確立されている、知識・能力・素質教育の有機的結合を意図した理念や目的が明確にされると考えられる。

学生の視野を広げる勉強ができる(70.0%)、幅広い知識を身に付ける(67.3%)、専門知識を身に付ける(70.1%)、が7割を超え、学生の創造的思考力が育成できる(50.7%)、教養教育を実施すべきである(50.3%)、から5割強、思考力を身に付けている(40.2%)、総合的に判断能力を身に付けている(40.2%)、理論的思考力を身に付ける(45.0%)、汎用的な能力を身に付ける(45.3%)、各科目の到達目標を明確にする(44.0%)、が4割強という結果が分かった。

専門教育と教養教育を融合させ、知識社会に適應できる人材の育成を目標とする、文系の学生には教養教育として理系科目を履修させ、又、理系の学生には文系科目を履修させるという「文理融合型」のカリキュラム編成を重視する、人文、社会、自然科学にまたがる学際的、総合的な内容を系統的に習得していることに関心持つのが70.0%以上の学生に適應していることが分かった。

探究心の養成ができる(21.2%)、個人の特長を伸ばすことができる(30.3%)、学習の幅広さと深さができる(35.2%)、多文化の関心を身に付けている(20.5%)

となっている。また、時間割を自由に組むことができる(15.0%)は、2割に達しない。

外国語や外国文化、哲学等を含む異文化への理解に関連する科目を多く履修しなければならない。ただし、学習者は異文化に関心度があまり高くなかったことが分かった。また、大学は学生に対して選択幅の拡大を目指しており、選択科目が多様化を提供している。ただし、必修科目が多過ぎるため、学生の個人の特長、興味により自由選択余地があまりなかったことが分かった。

学生へのインタビューから専門教育を減量することは大学の質が低下させられる可能性が心配された。必修科目の比重が大きすぎるので、選択科目を選択する余地があまりないという状況に置かれていることが判明した。その原因は種々考えられる。

- ① 教養教育と専門教育のバランスが不十分であること、
 - ② 教養教育への認識が乏しい、教員も学習者も専門教育志向が強い、
 - ③ 素質教育体系的研究が未発達であること、
- が挙げられるだろう。

これは50年間実施してきた旧ソ連のモデルに依存して、その影響力を依然として保持していることを反映したとみなされる。カリキュラムに関して、多くの大学は必修・選択や科目区分、卒業必要単位の数の見

直し等、カリキュラム改革を実施している。教養教育に関する科目も多様化して、多くの大学で学際的、総合的内容を持つ科目や専門教育の基礎科目を育成する科目、心身の健康に関する科目などが開設されている。外国語教育の改革が充実していることも判明した。

6. おわりに

以上主に高等教育カリキュラムにおける教養教育の位置づけについて検証してきた。一方で教養教育のあり方に大きな関わりをもつ政治の変動、経済の発展、社会の需要の変化に左右されることが明らかとなった。

1990年代から「素質（資質）教育」が提唱された。その教育思想が教養科目として大学のカリキュラムに導入されるようになった。多くの大学で大学生の一般的な素質を向上させることを目的にした。理工系の学生に対して文学、歴史、哲学、芸術などの人文社会科学教育を、文系学生に対しては、自然科学教育を開設することであった。

中国の大学における各学科は国家に定められた指導要領を設定していて、体系化されている。各大学が体系化したプログラムに基づいたカリキュラムを編成している。

北京大学、復旦大学、青島大学では文系学生は理系の科目を取り、また理工系の学生は社会科学や人文科学の科目をとる、というように、「文理融合型」というバランス良く教養を身に付けさせる。趣旨は新カリキュラムを鑑み、明確にすることである。更に経済のグローバル化で異文化コミュニケーション能力などがより強く求められるようになる。特に総合大学において理工系を初めとした高い専門性と幅広い知識、問題解決能力をもつ人材育成へのニーズが強まっていることが明らかになった。

北京師範大学が行った中国の高等教育課程及び思想政治教育状況調査の統計によると、大学生の総合資質（素質）の向上を重視すべきは82.4%、大学生の実践能力の養成を重視すべきなのは85.0%。現在実施されているカリキュラムは、大学生の角度から見れば、深い知識の教授よりも能力の育成の方が弱いと評価された。能力育成に重点を置くべきであることと、教養教育への認識が弱いことが分かった。

上記重点大学の事例を、素質教育を中心とする育成方案と教育実態の整合性を主に見てきたが、全体の趨

勢として、単一学科構造の理論を基礎としたカリキュラム構造は、多元的学科目への編成に早くから取組まれてきた。全学教養共通教育科目履修がかなり重視され、その内容が多岐に亘っていること、しかも選択の余地が極めて大きいことも特色となっていることを垣間見ることができると言えよう。

*「素質教育」とは

中国において深刻な受験偏重型の教育である‘応試教育’から学生の実際能力と素質の向上を目指す‘素質教育’へと転換させるために位置付けられていた新たな教育思想である。それは、民族の素質向上を目的として『教育法』（1986年）に規定する国家の教育方針に依拠する。‘素質教育’は学生の基本的素質を全面的に高めることを根本的な趣旨とする。それは学生の価値観や能力の育成を重視し、徳育・知育・体育等の面における活発かつ積極的な発展を促進することを、基本的な特徴とする教育である。‘素質教育’は学生に、人格を高め、知識を求め、勤労心を養い、良い生活習慣を身に付け、健康に留意し、そして審美心を養うようにさせて、理想・道徳性・教養・規律を身に付けた社会主義的な国民を育成するために、基礎を築くものである。

引用文献・参考文献

1. 楊東平 『艱難の日出：中国現代教育的20世紀』 文匯出版社 2003年 pp.1-113
2. 楊東平 『大学精神と現代大学制度』 大連大学シンポジウム 2007年5月
3. 李 佳 『近代中国大学通識教育課程研究』 浙江大学 2010年8月
4. 陳小紅 「大学教育課程に関する研究」『大学通識教育課程研究』2005年
5. 黄福濤 「1990年代後半の中国における学士課程カリキュラムの構造—日中比較の視点から」『大学論集』2001年 Vol.31. pp.145-158
6. 黄福濤 「第9章 大学のカリキュラム改革」『RIHE』81 2005年 p.106
7. 文輔相 『論大学素質教育』 高等教育研究 1995年
8. 文輔相 『提高学生整体素质，促进社会全面进步』 90年代中国教育改革大潮丛书
9. 『高等教育は二十一世紀を目指す教育内容及びカリキュラム体系改革計画』 中国教育年鑑 1997年版 人民

- 教育出版社 1997年 p.193
10. 国家教育委員会高等学校教育司編集 『高等教育は二十一世紀を目指す高等教育内容及びカリキュラム体系改革に関する経験汇编』 北京高等教育出版社 1997
 11. 江沢民『北京大学創立一百周年を祝う大会における講話』 人民日報 1998年5月5日
 12. 姚启和・文輔相 『二十一世紀に向けた教育振興行動計画』 1999年1月13日
 13. 王英傑・劉慧珍 『中国教育発展報告』 北京師範大学出版社 2005年12月
 14. 大塚豊 『現代中国高等教育の成立』 玉川大学出版社 1996 pp.165-233
 15. 劉少雪・張応強 『高等教育改革 理論と実践』 上海交通大学出版社 2007年
 16. 多賀秋五郎 『近代中国教育史資料・民国編(下)』 日本学術振興会 1975年
 17. 阿部洋 『日中教育文化交流と摩擦』 第一書房 1983年
 18. 復旦大学 「本科教学培養方案」 2009年
 19. 王英傑 『中国高等教育の発展、問題と対策』 北京師範大学出版社 2005年
 20. 顔洽茂 「研究型大学本科教育課程の構築及びコアカリキュラムに関する探究と実践」『2007年全国総合大学教務部長のシンポジウム』において 2007年
 21. 教育部高等教育司編 『教育改革の深化、21世紀に適応する高質人材の養成—第一次全国高等教育教学会議文件及び資料集』 高等教育出版社 1998年10月 pp.43-95

Notes on the Curriculum Reforms of Chinese Universities : Focusing on Liberal Arts Education

Meikon Kanzaki

<Abstract>

A radical and comprehensive reform of the curriculum of Chinese universities has been implemented since 1990. The main reason is that the introduction of a market economy to Chinese society requires raising and training of personnel who are needed for its economic development and social demand. The purposes of the curriculum reform are: (1) nurturing students who can see things from various angles, (2) the importance of Essential-qualities-oriented Education, and (3) the shift from an emphasis on technical education to new education contents in order to keep a balance between teaching liberal arts and Essential-qualities-oriented Education, and more profound professional education.

The aim of this study is to find out the present situation of liberal arts education in China by focusing on the curriculum reforms reflecting the qualitative change in Chinese universities. The study is based on a survey of seven universities in four provinces conducted between 2012 and 2014.

The result of analysis clarified that:

1. The curriculum of Chinese universities has become a fusion of arts and science.
2. Chinese universities curriculum system includes Essential-qualities-oriented Education.
3. Chinese universities pay more attention to subjects with foreign language courses, in order to deepen their understanding of foreign cultures.

Keywords: Curriculum reform of Chinese universities, Liberal arts education,
Essential-qualities-oriented Education, Elite education,
Education for the general public